

サービ斯拉ーニング活動報告

社会福祉学部社会福祉学科 2年 山本 龍貴

活動先：NPO 法人 だいこんの花

ゼミ：野尻 紀恵 先生

今回サービ斯拉ーニングという形で、福祉の現場の雰囲気を感じることができたのは自分にとって、とてもプラスになった。今まで、施設見学などで現場をみたことはあったが実際に利用者の方たちと接したのは初めてだった。そのため、わからないことが多く、不安と緊張で堅くなってしまふことが多々あった。そのような時、他のスタッフの方たちもフォローしてくれたのだが、利用者の方たちも話を広げてくれたりと温かい心遣いをしていただき緊張がほぐれたのが印象的だったのと同時に、気を遣わせてしまったことは反省点でもあった。

サービ斯拉ーニング一日目の活動のデイサービスでも二日目の活動の訪問介護もそれぞれ違った、学び・気づきがあった。デイサービスでは、転倒などの事故を防ぐことがとても大切だということを学んだ。転倒防止は基本中の基本なのかもしれないが、どれほど用心しても足りないほど大切なことだと思った。利用者の方によって、前から支えてほしい方であったり隣から支えてほしい方であったりとその方が安心できる支え方を考える必要があると学べてよかった。また、各利用者の方によって人間関係やその時の体調・機嫌は違う。そのため、自分がどの位置でどのような動きをしなければいけないかということも考えなければいけないと学んだ。昼食の際は、自分も食事をしつつ常に周りを気にしている必要があると思った。お肉など噛み切りにくいメニューはハサミで細かく切って食べやすく、喉に詰まってしまうたりしたら背中をさすったりと、活動を通して細かいところにも気を配れるようになった。

二日目の訪問介護では、その場に合った臨機応変な対応が求められるということ学んだ。訪問介護の場合だとあらかじめ一日の流れを決めて進行していくデイサービスとは違って、毎回場所や時間、行うことが変わるので自分で考えて動かなければならない部分が多かった。今回の活動では主に料理・掃除・買い出しをしたが、料理をするにしても利用者の方によって体調や感覚は違う。そのため、毎回どの方にも同じような味付けをしては利用者の方が求めていることにお応えできないと思った。掃除の場合は、ここにこれがあったら躓く可能性があるとか踏んだらけがをしてしまう物は落ちてないかなど注意深く見る必要がある。利用者の方々は私達を信頼して掃除や料理を任せていただいているので、利用者の方が求めていることを実現する必要があると、訪問介護の中で気付くことができた。

三日目は夏のイベントである刈谷花火大会に参加した。この花火大会では、デイサービスでも訪問介護でも経験できないような貴重な経験になった。このイベントでは、利用者

の方があらかじめ決めていた欲しい物を探して買い物をし、夕食を取った後に花火を見ると言った内容だった。今までのボランティアで少しの時間、車いすの方と一緒に行動することはあったが、今回のように一日一緒に行動したのは初めてだった。また、食事介助も初めての経験だった。利用者の方の食べられる大きさやペースを考えて喉に詰まらせないように気を遣うのは経験してみると難しいものだった。自分でこのくらいなら食べられるだろうと決めつけるのではなく、利用者の方に食べられるか聞いてコミュニケーションをしっかりと取ることが必要だと思った。今回自分が担当した利用者の方は今まで接してきた方たちよりもコミュニケーションを取るのが難しかった。言っていることを何回か聞き返してしまう場面が多々あったのが反省すべきポイントだったと感じている。今後このような機会があったら、利用者の方のストレスを最小限に抑える接し方をしたいと考えている。例えば、何を言っているのか聞きとれなかったらジェスチャーなどの別の表現をしてもらうなど、自分にできる工夫を考えたいと思った。

四日目はだいこんの花の夏のメインイベントである夏祭りのリハーサルだった。この夏祭りの企画・運営を任せるとサービスラーニングが始まる前に説明を受けていた。しかし、私達学生側の動き出しが遅かったのと、担当者の方への連絡を怠ってしまったせいで多大な迷惑をかけてしまった。夏祭りに参加していただくゲストの方への連絡も本来なら私達の役目だったのだが、それも担当者の方に丸投げする形になってしまったし、リハーサルの際も私達の準備不足のせいで夜遅くまで時間を取らせてしまった。五日目・六日目の夏祭り本番は無事に成功したが失敗する可能性も大きかったと思う。最初の打ち合わせの時点で、企画は早めに考えて準備するようと言われていたので、これなら成功間違いなしと自信が持てるくらい準備する時間はあった。しかし、大きな不安を残したまま本番をむかえてしまったことを深く反省して、今後同じような機会があったときに失敗しないように肝に銘じておきたいと思った。

今回の一番の反省点は、夏祭りの成功が自分たちの中で最終目標になっており、全体的に視野が狭くなってしまったことだ。振り返りの際に担当者の方に、なぜ小規模でやっているか、地域密着でやっているかなどに目を向けられたらよかったと言われた。たしかに活動中に学べる事や感じられることはもっとあったはずだ。それだけ自分たちの意識が低かったのだと思った。せっかく貴重な時間を過ごしていたのに、その時間を有意義に使いきれなかったのが最大の反省点だ。

私が活動した「だいこんの花」は小・中学校・病院・各施設など地域全体で支え合う、地域包括ケアを目指している。最後まで、住み慣れた町・家で過ごせるようにサポートしていきたいとおっしゃっていた。やはり誰も最もリラックスできるのは親しい人や家族がいる町や家だと思う。そのようなリラックスできる場所で最期を迎えたいと思っている人は少なからずいると思う。しかし、介護などの問題になると一般の家庭ではとても負担になってしまう。その負担を少しでも和らげることのできる施設を「だいこんの花」は目指しているのではと私は感じた。